助教の授業担当について

平成21年5月27日

第4回理事会

平成17年の学校教育法の改正によって「助教」の職が設けられ（第92条）、対応して大学設置基準第10条では「主要授業科目」は「原則として」専任の教授または准教授が担当し、「主要授業科目以外の授業科目」については「なるべく」「助教」を含む「教授等」が担当するものとされた。

これに合わせて、本学では評議会決定により、講義科目を「主要授業科目」と位置付け、学部の講義科目は専任の教授または准教授で担当し、助教は、学部の演習、実験、実習科目を担当するものとし、また、大学院の科目は担当しないものとしてきた。

しかし、「助教」の職がスタートし数年を経て、助教の間にも、研究業績や教育実績、あるいは学位の点で、学部の講義科目の担当、あるいは大学院の科目担当も可能と見られる場合も出ている。

そこで、助教の授業担当についての取り扱いを次のように改める。なお、その際、「担当」とは、単独または共同で授業を行い、かつ単独または共同で単位の認定の基礎となる成績評価を行うことをいう。

1. 助教は、学士課程（共通教育及び専門教育）の講義を担当できるものとする。

ただし、助教に学士課程の講義を担当させるためには、学部長または共通教育運営委員会委員長は、あらかじめ、公立大学法人宮城大学評価委員会（以下「評価委員会」という）委員長に対して、当該助教による授業科目の担当について教員資格審査の申請を行い、評価委員会の教員資格審査において、申請科目の担当について「可」の判定を得なければならない。

2. 助教は、大学院修士課程の演習、実験、実習等の授業を担当できるものとする。

ただし、助教に大学院修士課程の授業を担当させるためには、研究科長は、あらかじめ、評価委員会委員長に対して、当該助教による授業科目の担当について教員資格審査の申請を行い、評価委員会の教員資格審査において、申請科目の担当について「可」の判定を得なければならない。

3. 上記1及び2の取り扱いは、平成22年度前期の授業科目担当から適用する。